

■安倍能成 哲学者・教育者。リベラリストとして、敗戦直後にめざましい活躍の場が与えられた。

あべよししげ

岩倉具視没・1883＝ 松山城下の小唐人町で、医師安倍義任・シナの八男に生まれる。

帝国憲法発布1889＝ 6歳：

大本教・・・1892＝ 9歳：

日清戦争始・1894＝11歳：

田中正造直訴1901＝18歳：松山中を卒業、家庭の経済事情より中学卒業後1年間、母校の助教論心得として英語を教えた後、教科書疑獄・1902＝19歳：第一高等学校に入学、夏目漱石や波多野精一・高浜虚子の影響を受け、野上豊一郎・岩波茂雄らと交流し、個人主義を主張して注目される。

日比谷公園・1903＝20歳：この年日光華厳の滝に飛び込み自殺して世の中に衝撃与えた同期の藤村操の妹恭子と後に結婚。

日露戦争始・1904＝21歳：東京帝国大学文科哲学科へ進み、一高を2年浪人して中退した岩波茂雄との交流は終生続く。

日露戦争終・1905＝22歳：

カントを専攻する一方、友人が夏目漱石の元を訪問するのと同行して以来、漱石を深く尊敬して自然主義の文芸評論を手がける。

伊藤博文暗殺1909＝26歳：卒業。

韓国併合・・・1910＝27歳：*漱石が修善寺の大患に陥った時、友人らと駆けつけるなど、漱石門下の四天王と称されるに至る。鈴木三重吉や寺田寅彦との出会いも、漱石を通じてのものであった。

明治天皇没・1912＝29歳：オイケンの「大思想家の人生観」を訳す。

大正政変・・・1913＝30歳：「予の世界」。岩波茂雄が書店を開くと、その経営方針に深く関与、

第一次大戦始1914＝31歳：「無用語」。

21ヶ条要求・1915＝32歳：「オイケン」。以降3年、岩波版「哲学叢書」の編集に当たる。

民本主義・・・1916＝33歳：慶応義塾の講師となり、岩波書店から「西洋古代中世哲学史」、

ロシア革命・1917＝34歳：続いて「西洋近世哲学史」を出版、

ベルサイユ条約・1919＝36歳：

大暴落・・・1920＝37歳：法政大学教授。

原敬首相暗殺1921＝38歳：

護憲三派圧勝1924＝41歳：「思想と文化」。岩波書店から「カントの実践哲学」「山中雑記」。フランス・ドイツ・イタリアに留学、

円本時代始・1926＝43歳：帰国後、京城帝国大学教授に就任、朝鮮の文化を詳細に検討し、日本人の朝鮮蔑視感情を諷めている。

共産党事件・1928＝45歳：

満州事変・・・1931＝48歳：満州事変で一気に戦時体制となって行くなかも、

五一五事件・1932＝49歳：「青丘雑記」。

国際連盟脱退1933＝50歳：「ギリシヤとスカンディナキヤ」、

帝人疑獄事件1934＝51歳：岩波書店から「静夜集」、

芥川直木賞始1935＝52歳：「スピノザ倫理学」、

二二六事件・1936＝53歳：「草野集」、

日中戦争始・1937＝54歳：「孟子・荀子」、

健保+総動員 1938＝55歳：「朝暮抄」と、出版を続け、

大政翼賛会・1940＝57歳：「青年と教養」。*母校一高校長になると、名校長と謳われ、軍部が進める高等学校の年限短縮に反対したり、近衛文麿に早期和平の進言をして、憲兵隊の監視対象になったことなどから、

日米開戦・・・1941＝58歳：「時代と文化」、

・・・1942＝59歳：「自然・人間・書物」と続けて岩波書店から出版するが、

創価学会検挙1943＝60歳：岩波書店が弾圧されたため、他の書店から「巷塵抄」、

年金+総武装 1944＝61歳：「西遊抄」を出版。

敗戦・・・1945＝62歳：敗戦後、*敗戦でめざましい活躍の場が与えられる。貴族議員となり憲法改正特別委員会委員長。山本有三・志賀直哉・和辻哲郎・谷川徹三・田中耕太郎らと同心会を結成して、

新憲法公布・1946＝63歳：「戦中戦後」。岩波書店から雑誌{世界}創刊に結びつけた直後、生涯の友岩波が死去。幣原改組内閣の文部大臣に招聘されて教育制度改革に尽力、退任後、帝室(後に国立)博物館館長職を一時務めた後、

新憲法施行・1947＝64歳：「権域抄」。学習院院長となり、以後没するまで続け、皇室との関係も深かった。国語調査会会長、教育刷新委員会委員長の要職にもついた。

極東裁判判決・1948＝65歳：「日本人として」「西洋道徳思想史」「能楽雑叢」。翌年にかけて「安倍能成選集(全5巻)」。{世界}をよりどころとする平和問題談話会に参加し、同人誌{心}を創刊して、中心的メンバーとなった。

三大事件・・・1949＝66歳：「(新版)カントの実践哲学」「文化・思想・哲学」「私の歩み」。文教審議会で「教育宣言」討議。「戦争と平和に関する日本の科学者の声明」を{世界}に発表。

独立回復・・・1951＝68歳：「平和への念願」。結成された「平和問題談話会」の発起人にもなった。

TV放送始・・・1953＝70歳：「一リベラリストの言葉」、

自衛隊発足・1954＝71歳：中国訪問学術文化視察団の団長(日中学術交流共同声明を発表)。

55年体制始・1955＝72歳：

なべ底不況・1957＝74歳：岩波茂雄についての公式伝記として執筆した「岩波茂雄伝」が刊行され、

イラストラメン・1958＝75歳：読売文学賞。

美智子妃・・・1959＝76歳：「戦後の自叙伝」、

安保闘争・・・1960＝77歳：

東京オリンピック 1964＝81歳：勲一等授瑞宝章。

いざなぎ景気1966＝83歳：*「人生をどう生きるか」「我が生ひ立ち 自叙伝」を遺して、没した。

戦前・戦後を通じて一貫した自由主義者であり、戦前の軍国主義に対する批判のみならず、戦後の社会主義への過大な評価に対しても批判的な態度を取った。

インターネット(Wikipedia)、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、